

特集 知ればもつと好きになる瀬戸内市

胸を張ってふるさと自慢

「瀬戸内市は、日本のエーゲ海・竹久夢二・名刀備前長船と全国区のものがある。いいところだね」。

合併したころ、よく耳にした言葉です。

牛窓町・邑久町・長船町の3町が合併し誕生した瀬戸内市は、歴史と豊かな自然に恵まれ、多くの有名人も出ています。

「瀬戸内市総合計画」・「瀬戸内市総合保健福祉計画」策定のためのアンケート（15歳以上の市内居住者の中から無作為に250人を抽出）で、まだまだ活かされていないふるさと自慢が数多く上がりました。

広報担当も、取材時に行く先々で、ふるさと自慢を伺ったところ、人物、歴史、文化、

風景、イベント、気候・風土、地域で行うふれあいなど、多くの皆さんが、さまざまなものを誇りに思っていることが分かりました。

今月は、その中から代表的なものを幾つか紹介します。

あなたはふるさとが好きですか？

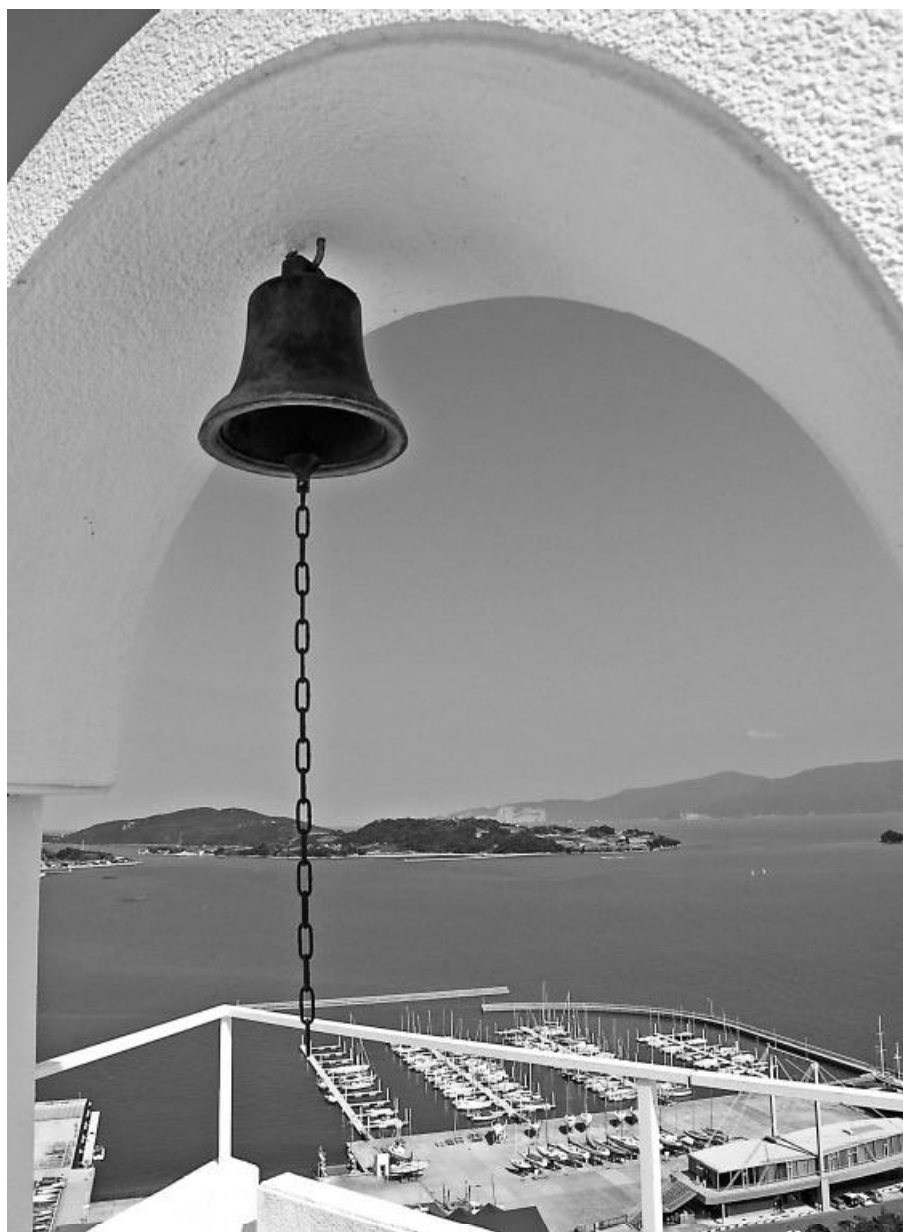
あなたのふるさと自慢は何ですか？



竹久夢二が16歳まで過ごした生家は、今も生前のまま残されています（邑久町本庄）



備前長船鍛冶場では、鍛錬作業を公開。1,300度の高温と職人が打ちのばす圧力で玉鋼から不純物を取り除いています（長船町長船）



温暖な気候・風土に恵まれた瀬戸内海の美しい景色は心が落ち着きます（牛窓町鹿歩山付近から撮影）